



ななほ

市民の友

第689号 毎月1回発行
2008年(平成20年)

6月

市の人口と世帯	
※()内はうち外国人	
2008(平成20)年4月末現在	
総人口	315,942 (2,080)
男	152,305 (1,087)
女	163,637 (993)
世帯数	131,828 (1,267)
住民基本台帳人口の内訳(外国人を除く)	
本 庁	94,074
真和志	104,213
首 里	58,202
小 祿	57,373

発行●那覇市 編集●秘書広報課
〒900-8585 那覇市泉崎1丁目1番1号
☎867-0111 ●印刷 (株)近代美術



オー！オー！一致団結!!

第34回那覇ハーリー

沖縄に若夏の到来を告げる「那覇ハーリー」が、5月3日(土)から5月5日(月)までの三日間、那覇港新港ふ頭で行われました。

ハーリーは、600年以上前に中国から伝わったといわれる伝統行事で、海の神へ航海の安全や豊漁を祈願して行われるものです。

開会式では、今年で102歳になる那覇龍船振興会の吉濱照訓会長が、「よつこせいらつしやいました」と、堂々と開会の言葉を述べました。

今年の中学生競漕には、男子18校、女子15校の中学校が参加し、友人や学校関係者の沸きあがる歓声の中、男子は那覇中学校が、女子では金城中学校が、「オー！オー！」の掛け声に合わせ、みごとなチームワークで優勝の栄冠に輝きました。

那覇ハーリーのクライマックス、黄色の久米、緑の那覇、黒の泊の三艘が競う本ハーリーでは、あいにくの雨をもともしない、力強い櫂さばきの結果、昨年に続いて泊が二連覇を果たしました。

また舞台では、お笑いライブや人気のミュージシャンのコンサート、ワールドダンスフェスティバルなど、多彩なイベントが行われ、観客たちを楽しませていました。祭りのフィナーレには約5000発の花火が打ち上げられ、那覇の夜空を美しく飾りました。第34回那覇ハーリーには、地元客や観光客など約23万3千人が来場し、大いに賑わいを見せていました。

主な紙面

5月30日はごみゼロの日
平成20年度市政功労者
(12名)を表彰
健(検)診がかわります
情報P A C K

6 5 3 2
7 4

協働のまちづくり 那覇を紡ぐ

近年、犯罪が増加の一途をたどり、治安の悪化が憂慮されるなか、「自分たちのまちは、自分たちで守る」という意識が高まりを見せています。

安心して過ごせるまちを目指し、市民のみなさまや事業所、自治会などが地域で密着した防犯活動を展開し、犯罪を未然に防止しようと、自主的に防犯パトロール隊を結成する動きが全国的に活発化しています。

市内でも、小祿老人福祉センターのウォーキング講座を受講したみなさんが、健康維持のウォーキングをしながら、地域防犯パトロールを行う、「うるくみーまーる隊」を結成し地域を見守っています。

地域を見守る

「うるくみーまーる隊」

市ではこれからも、市民のみなさまとともに、防犯に対する意識を高め、それぞれの地域で犯罪や非行などのない安全で明るく住み良い、子どもたちの笑顔が輝くまちづくりを目指し全力で取り組んでいきます。

ね」と笑顔を見せていました。

また、メンバーの女性は、「仲間と和気あいあいとパトロールしているので、苦にはなりません。何より、自分の孫のような地域の子どもの安全に役立っていると思うと、ますますやる気が出てきます」と胸を張っていました。

市では、市民の生命、身体、財産を守ることは行政上の最重要課題であり、市民生活の安心・安全を確保するためには、地域のみなさん、学校や警察、行政が一体となつて取り組んでいく必要があると考えています。

「うるくみーまーる隊」のメンバーは平均年齢75歳で、週に1度、1時間程度の時間をかけて、小祿老人福祉センターに近い、小祿南、宇栄原、小祿の三小学校の校区を回り、子どもたちの安全と地域の防犯パトロールを行っています。同隊の翁長良義副会長は、「わたしたちが地域を見て回ること、少しでも犯罪の抑制につながればいいと思います。また、パトロールを始めた頃には、あいつを返してくれなかった地域の子どものたちが、今では、きちんとあいつしてくれるようになったことが一番嬉しいです」



「協働」とは、まちづくりのために、市民・事業者・市民団体・行政などが、それぞれの特性を発揮しながら協力しあうことです。



「気をつけて帰るんだよ」。子どもたちに優しく声をかけながら、防犯パトロールを行っています。